

I 序

国立保健医療科学院
院長 福島靖正

平成30年度の国立保健医療科学院（以下、「本院」）の年報をお届けいたします。

本院は、保健、医療、福祉及び生活環境に関連する業務に従事している専門職員等の養成訓練を行うとともに、これらに関する調査及び研究を行っており、これらを通じて、わが国の公衆衛生の向上に寄与することを使命としております。

養成訓練は、国及び地方公共団体等において、保健医療、生活衛生及びこれらに関連する社会福祉（以下「保健医療等」）に関連する業務に従事している職員やこれから従事しようとする方々に対し、保健医療等の基本理念、実践的な専門的知識・技術、最新の情報などの修得を目的として実施しており、研究課程、専門課程の長期研修と44コースの短期研修があります。また、途上国において保健医療行政に従事している行政官等を対象とした国際研修を5コース実施しております。平成30年度の修了者は研究課程2名、専門課程60名、短期研修1,954名、国際研修76名となっております。

調査研究は、本院の一般予算で実施している基盤的研究と厚生労働科学研究費補助金、科学研究費助成事業、日本医療研究開発機構（AMED）補助金等の外部研究資金を獲得して実施している研究があります。平成30年度に獲得した外部資金は課題数175、総額3億1千万円となっております。これらの資金を活用して、平成30年度も数多くの業績を上げることができました。

平成から令和へと時代は変わりましたが、保健医療福祉領域における2025年問題、2040年問題の解決へ向けて、地方自治体等における専門家の養成及び政策立案、実施を支援する研究を進めていくという、本院の役割はますます大きくなっていくものと思います。この役割を的確に果たすためには、養成訓練と研究の内容をこれまで以上に充実させていく必要があります。本院職員一同、力を合わせて、業務を推進してまいりますので、皆様には、引き続き、ご理解及びご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。